

オスティア・アンティカにおける聖モニカ顕彰碑文をめぐって

豊田浩志（上智大学）

本科研による私の研究対象は、まったく異なる2論点からなっている。一つが、私が遺跡内を幾度となく経巡るうちに気づいた古代都市オスティアにおける水環境、とりわけトイレと下水構造に関するものである。私はその骨子をかっつて日本語で報告したことがある。本報告では、もうひとつの、ある碑文についての知見について報告する。それは、文書史料に書かれていることが考古学遺物によって確証された数少ない希有な例であるからである。

それは偶然の発見だった。1945年の夏、オスティア・アンティカ遺跡に隣接するBorgo di Ostiaの、S. Aurea教会の狭い中庭で、小教区青年会メンバーの二人が「il passo volante」（報告者によって、「サッカー」とか「バスケットボール」と表記されている）という球技のため、セメント製支柱を据え付けるため穴を掘っていた。そして彼らは古代ローマ時代の白色大理石の平板に刻まれた墓碑銘の断片を発見した。テッラ・コッタ製の棺の天井部分を覆っていた幾つかの古代の瓦もいっしょだった（写真1-3）。急いでその区画が調査されたが、それ以上なにももたらされなかった。

発見された石板は2つの割れ目により3分割で出土した。最大幅23.6インチ(61.5cm)、最大高さ22インチ(57cm)、文字は高さ1.77インチ(4.5cm)、6行の韻文の行頭部分が2行連句で刻まれていた。保存されたのは銘文全体の3分の1強、より正確にいうと、197ないし199字のうち67字が残存している（註1）。

以下（a）が出土碑文に刻まれた文面で、読みやすく小文字まじりで分かち書きにしたものが（b）である。字体は明らかに後期ローマ帝国時代の特徴をみせている。

（ a ）

（ b ）

HICPOSVITCIN

Hic posuit cin

AVGVSTINETV

Augustine tu

QVISERVANSPA

Qui servans pa

COMMISSOSPO

Commissos po

GLORIAVOSM

Gloria vos m

VIRTVTVMMA

Virtutum ma

研究者たちがこの献辞文に注目したのは、一人の著名人に関わる内容であったからであり、またその銘文そのものはすでに他の諸文書史料によって知られていたからである。すなわち、2行目に「 Augustine 」とあり、これは容易に教会大博士聖 Aurelius Augustinus (354年 11月 13日 - 430年 8月 28日) と同定できよう。

他方で、古代の巡礼者による複数の転写史料が残っていて、その最古 (*Codex Parisinus Latinus 5315*) は8世紀に属している (註2)。それらによると全文は以下で、奇しくも今回の出土碑文の左端部分と完全に一致していた。ちなみに「強弱5歩格 pentameter 」の由。

(c)

Hic posuit cineres genetrix castissima prolis

Augustine tui altera lux meriti o tivis altera lux meritis;

Qui servans pacis caelestia iura sacerdos

Commissos populos moribus instituis.

Gloria vos maior gestorum laude coronat

Virtutum mater felicior subolis 【subole】 .

それを A.Casamassa は、以下のように翻訳した（註 3）。

(d)

Qui pose le sue spoglie la castissima madre, altra luce per i tuoi meriti, o Agositno; tu che come vescovo, difensore dei divini diritti dell'unità della Chiesa, reggi le genti a te affidate. La gloria delle virtù, più grande di ogni lode dei fatti, vi corona, o madre più fortunata del tuo stesso figlio.

【試訳】

ここに、子供（アウグスティヌス）のもっとも敬虔な母が遺体を横たえる、
アウグスティヌスよ、（彼女は）汝の善行の第2の光、
彼（アウグスティヌス）は平和の天上の法により、聖職者たちと
委託された民衆たちを、定めの手によって保護する。
より大いなる偉業の栄光が、汝ら（二人）を飾り、
諸徳の母は、息子のより一層の繁栄。

そして、9世紀のある写本（*Cod.Paris.Lat.8093,fol.32v*）には、献辞文の前書きに、その著者に関する次の2行連句が付せられている。

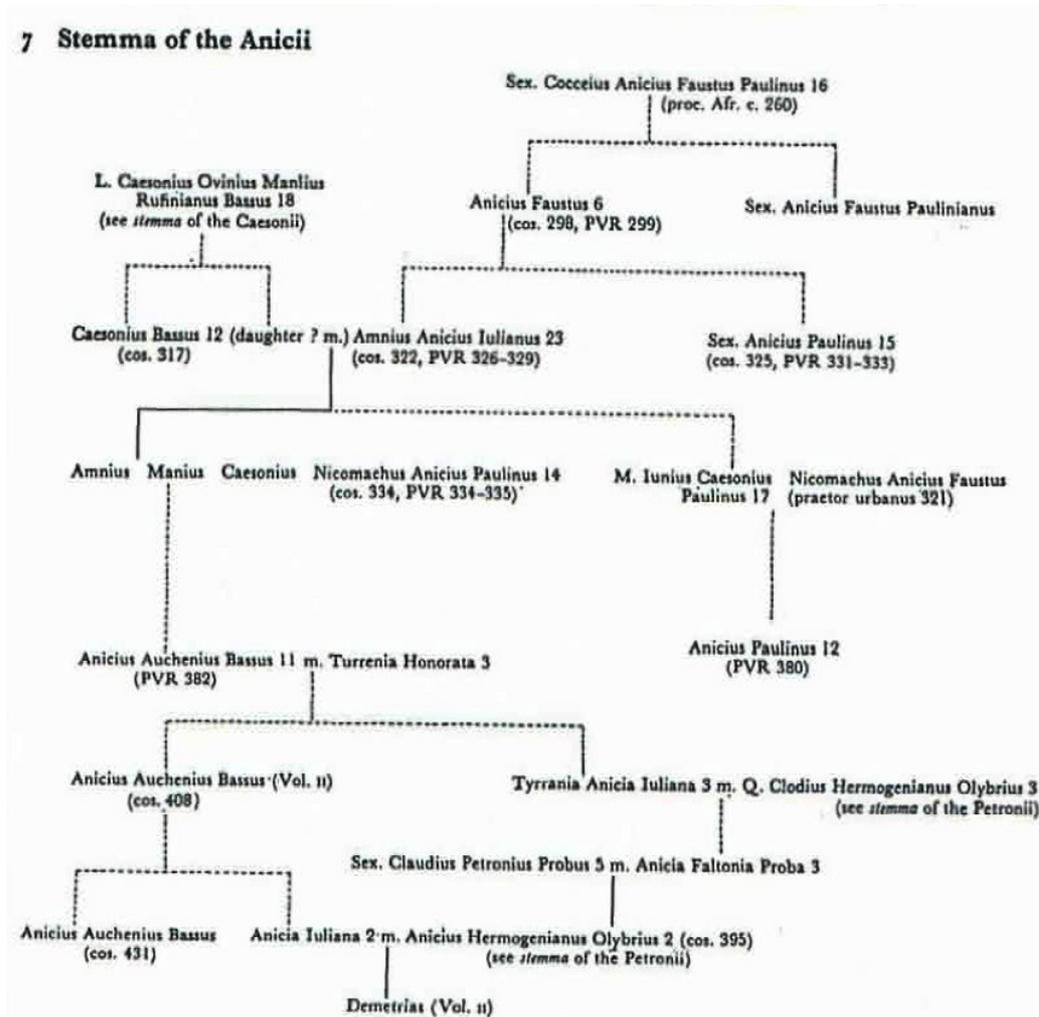
Versus inlustrissime memorie Bassi excosul e. scripti in tumulo sce memorie

Munice matris sci Augustini

最も貴顕な執政官経験者バッシスの記念の詩句、
（それは）聖ムニカ、聖アウグスティヌスの母、の記念の墓に書かれた

ここに登場する Bassus で、アウグスティヌスと同時代に属する人物を我々は二人知っている。すなわち Anicius Auchenius Bassus とその息子 Fl. Anicius Auchenius Bassus で、彼らはそれぞれ408年と431年に執政官職に就いていた（註4）。モンニカは387年にオスティアで熱病で発病後9日目に死亡し、その地に葬られた。56歳、息子は33歳

だった (*Conf.*, IX.11-12 [27-33] : *Ep.*36.14.32, cf., 54.2.3 : *Persev.*20.53) 。 3 , 4 行目の内容から、アウグスティヌスの生存中で、彼が司祭・司教職就任後であることは明らか。彼は、391年 Hippo Regius 教会 (現在のアルジェリアの [Annaba](#)) で司祭叙品され、395年そこの補佐司教、396年 Hippo Regius 教会司教となり、430年に死去している。それゆえ、献辞文の著者として父親の Bassus が該当する。



なお、父ないし息子の Bassus は別のオスティア出土碑文にも登場している。それはオスティアの諸殉教者の顕彰のため、本人とその妻ないし母 Turrenia Honorata (註 5) によってなされた寄進に言及したものである。これからも分かるように、オスティアにおけるキリスト教共同体はかなり活発だったようだ。それはそこのキリスト教墓地に属す多数の墓碑からも明らかである (註 6) 。

モンニカはオスティアに葬られたが、正確なその場所は同定されていない。しかし、

Bassus の献辞碑文や中世の巡礼者たちの諸写本の存在は、聖モンニカへの崇敬が古くからされていたことを立証している。それについて Trapé は、以下のようにまとめている。

Infatti ancora nei secoli posteriori rimase viva la tradizione della presenza delle reliquie di M. presso la chiesa di S.Aurea. E nel 1430,9 apr., quelle reliquie furono trasferite a Roma nella chiesa di S.Trifone, oggi S.Agostino, dove si venerano con grande devozione. M. infatti è considerata modello e patrona delle madri cristiane.

彼女の聖遺骸の移送は、教皇 Martinus 5 世の命令によって行われ、主祭壇左側の礼拝堂に収容され、今日に到っている（註 7）。そこは、ナヴォーナ広場の北東角の向こうのブロックの Piazza Sant'Agostino に北面した教会で、カラバッジョの「巡礼者の聖母」ないし「ロレートの聖母」（1604 年ごろ製作）を所蔵していることでも著名である。

余談であるが、息子の遺骸はミラノ近くの Pavia に移送され、保管されている。北アフリカ、現在のアルジェリアのヒッポ・レギウスの教会には、右腕の骨のみ飾られている由である（註 8）。

【写真1】 Borgo di Ostia の衛星写真（ Google Earth ）。



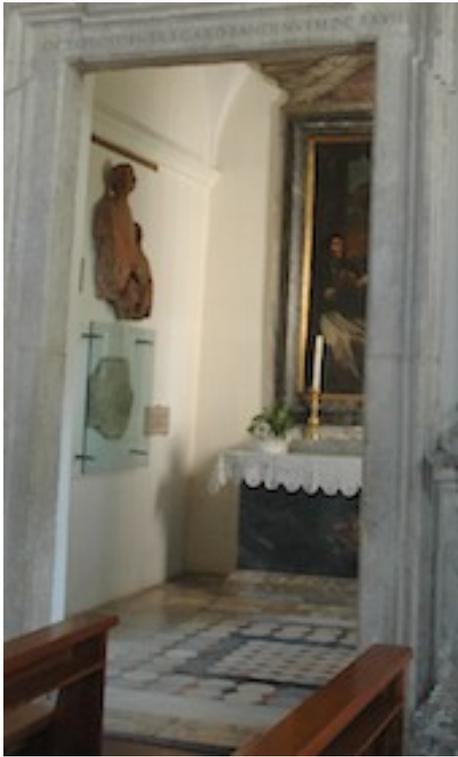
南西端が城砦 Castello で、 Cardinal Giulio della Rovere 、すなわち後の教皇 Julius II の命令で建てられた。その北東に Piazza della Rocca を中心に Borgo がある。現在、Google Earth でパノラマ写真を見ることができる。その東南部分を S.Aurea 教会と司教

館が占めていて、狭い中庭がある。大理石板の発見場所はどうかここらしい。また、かつて古代ローマ時代の水道渠が Acilia の水源から、Borgo の北東角（塔がある）に向けて走ってきて、そこから Borgo の東城壁から南城壁に回り込み Ostia antica の貯水槽に達していた。司教館東壁にその痕跡が残っていて、Via Gesualdo から運動場越しに確認することができる。城砦の西の横断歩道の 300 m 先に Ostia antica 遺跡入り口がある。

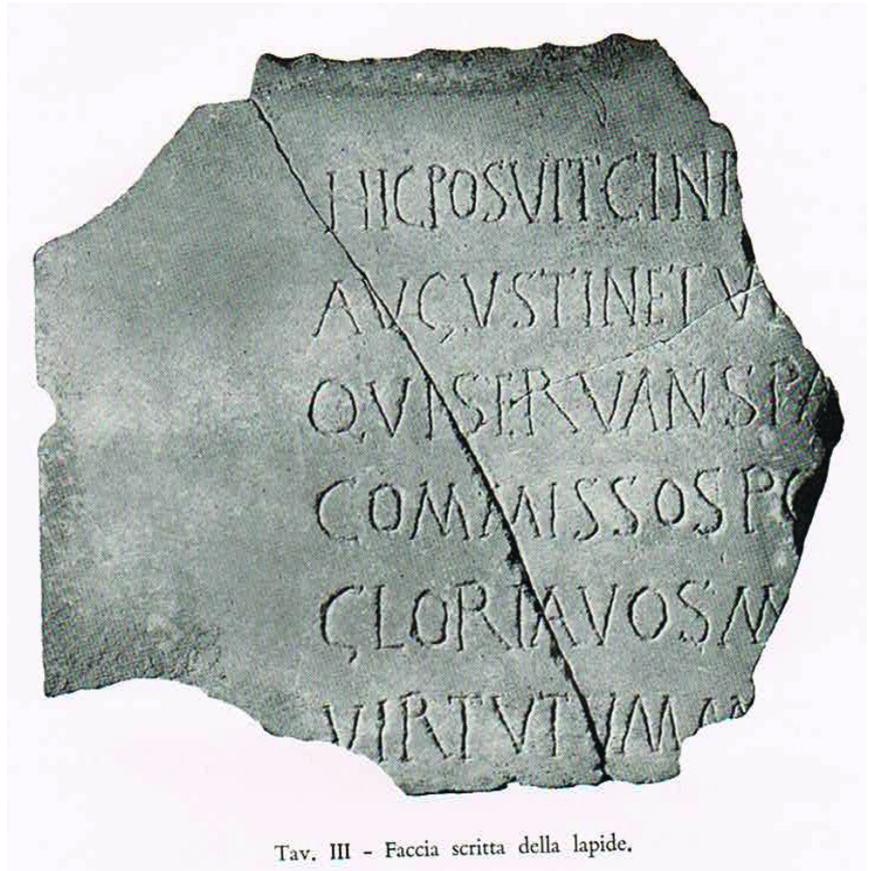
【写真 2】 S. Aurea 教会ファサード。教会の奥に鐘楼付きでみえるのが司教館。その手前が発見場所の中庭（筆者撮影）。



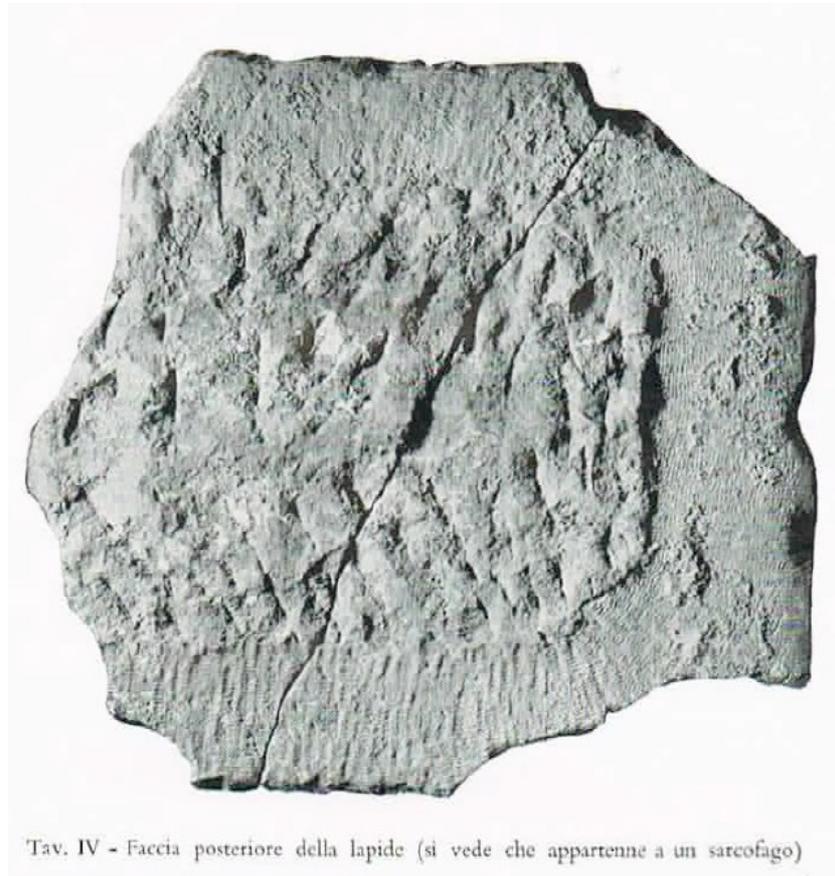
現在、Google Earth で聖堂内のパノラマ写真をみることができる。祭壇を背にして左側中央に聖モニカ礼拝堂の入り口がみえる。そこの正面祭壇奥にオスティア・アンティカの宿屋で庭を見ながら歓談するモニカとアウグスティヌスを描いた絵がみえる。出土顕彰碑文はその左壁に強化ガラスで覆われ保存されている（筆者撮影）。



【写真 3】 聖モニカ礼拝堂内の碑文（写真は、 Antonio Casamassa, Ritrovamento di parte dell'elogio di S.Monica, in: *Scritti Patristici*, vol.1, Lateranum, 1955, pp.215-9,Tav.III,Tav.IV. ）



Tav. III - Faccia scritta della lapide.



Tav. IV - Faccia posteriore della lapide (si vede che appartenne a un sarcofago)

石板の左側にかなりの空白部分があるので、その形状から本来の碑文全体の左側部分の

断片と容易に推察できる（全体の3分の1が残存）。

【写真4】 聖モニカの聖遺骸を所蔵するローマの Sant'Agostino 教会（右上）付近の衛星写真（ Google Earth ）。下部の馬蹄形はナヴォーナ広場。



西向きにみた Piazza Sant'Agostino。右が教会ファサード（ Augnet ）。



主祭壇左の聖モンニカ礼拝堂正面と、祭壇下に見える聖骸安置所（ Augnet ）。





【註記】

註 1 : R.Arbesmann, O.S.A., A Lucky Archaeological Find, in: *The Classical Bulletin*, vol.23-2, 1946, 9-10. なお、発見年は、R.Meiggs, *Roman Ostia*, Oxford, 1973-2, 400 ; Maria-Barbara v.Stritzky, Monnica, in: *Lexikon für Theologie und Kirche*, Bd.6, Herder, 1998, col.413 ; M.Cébeillac-Gervasoni, M.L.Caldelli, F.Zevi, *Épigraphie latine*, Armand Coln, 2006, 319、などに基づく。S.Aurea 教会内での表示もそうになっている。 cf., <http://www.augnet.org/default.asp?ipageid=6>、 Os044_174.jpg.

註 2 : 少なくとも 12 写本が残存。 G.B.De Rossi, *Inscriptiones Christianae urbis Romae septimo saeculo anteriores*, Roma, 1857-1888, II, 252, n.2. ただし、既出 M.Cébeillac -Gervasoni et als., *op.cit.* では、最古は 7 世紀。

註 3 : A.Casamassa, O.S.A., *Rendiconti della Pont.Accad.Romana di Archeol.* 1952-3 e 1953-54, 271ss.= idem, Ritrovamento di parte dell'Elogio di S.Monica, in: *Scritti Patristici*, vol.I, Roma, 1955, 215-20 ; P.Testini, *Archeologia cristiana : nozioni generali dalle origini alla fine del sec.VI*, Edipuglia, 1980-2, 464. 仏訳 = Cébeillac-Gervasoni et als., 319. 英訳 = <http://www.ostia-antica.org/dict/south/saurea.htm>. なお、末尾の異読の典拠については、以下参照。 subolis : Riese, *Anthologia Latina*, fasc.ii, 127=Brieger's *Zeritschrift für Kirchengeschichte*, vol.1, 228. subole : Casamassa, *op.cit.* ; Testini, *op.cit.* ; Cébeillac-Gervasoni et als., 318-9.

註 4 : J.R.Martindale, *The Prosopography of the Later Roman Empire*, vol.II, Cambridge U.P., 1980, 219-221. cf., STEMMATA 7: Stemma of the Anicii, in : A.H.M. Jones, J.R.Martindale, J.Morris, *op.cit.*, vol.1, 1971, 1133.

註 5 : ” Anicius Auchenius Bassus V(ir)C(larissimus) et Turrenia honorata c(larissima)F(emina) eius cum filiis deo sanctisque devoti P” = H.Leclercq, Ostie, in: *Dictionnaire d'archeologie chretienne et de liturgie*, Tome 3, Paris, 1937, col.47, fig.9287 = *CIL*, XIV, 171:1875 = *ILS*, vol.I, 1979, 287:1292=*ILCV*, vol.I, Dublin/Zürich, 1970-3, 27: 91. 碑文が「 chi rho 」のモノグラムで終わっているので、彼女は夫 Anicius Auchenius Bassus (PVR : 382-3年) とともにキリスト教徒だったとされる。Cf., Jones et als., *op.cit.*, 152-4, 437. Arbesmann, 10 は、彼女を Bassus (408年執政官) の母親とする。

註 6 : Cf., Leclercq, *op.cit.*, col.41-53 : 同所のみでもすでに、 O.Marucchi, *I monumenti del museo cristiano Pio-Lateranense riprodotti in atlante di XCVI tavole*, Milano, 1910, pl.XLIV 掲載の 31 例と共に、 47 断片が列挙されている。その後の発掘成果は、以下参照。 G.Calza, Nuove testimonianze del cristianesimo a Ostia, *Rend.Pont.Acc*, 25-26, 1949-51, 123-138 ; D.Mazzoleni, Epigraphi chrétienne: notes et observations, in: *Sous la direction de Jean-Paul Descoedres, Ostia: port et porte de la Rome antique*, Musée Rath Genève, 2001, 283-288.

註 7 : Trapé, *op.cit.*, 556-7.

註 8 : Jan T.Hallenbeck, The Transferal of the Relics of St.Augustine of Hippo from Sardinia to Pavia in the Early Middle Ages, in: *Studies in the Bible and Early Christianity*, vol.41, New York, 2000. cf., <http://augnet.org/default.asp?ipageid=6,Pav006-014>